



カメラスケッチ

市内各地で開催された
イベントや出来事をお届けします



霧ヶ岳山開き登山



5月5日㊥ 霧ヶ岳（浦川原区）

初 夏を思わせる陽気の中、標高507mの霧ヶ岳で60人の参加者が山歩きを楽しみました。参加者からは、「山頂から見渡す山々の眺めは最高。また登りたい」との感想が聞かれました。



くびき野レールパーク一般公開



5月5日㊥ くびき野レールパーク（頸城区百間町）

く びき野レールパークで一般公開が行われ、軽便車両の体験乗車のほか、コッペル号の汽笛を鳴らす体験や、車両を引っ張って何人で動かせるかなどのイベントが行われました。

いたくら芝桜まつり



4月20日㊥～5月12日㊥ 糸しんの里やすらぎ荘（板倉区久々野）

昨 年に引き続き開催された、いたくら芝桜まつり。大空を雄大に泳ぐ100匹以上のこのぼりと芝桜の共演を楽しみに、会場には多くの人が訪れました。

散策ツアー「大池を歩いて春を満喫しよう」



4月27日㊥ 大池いこいの森（頸城区日根津）

大 池の春を感じる散策ツアーに18人が参加しました。参加者はガイドの説明を聞きながら、ウワミズザクラやオオイワカガミなど春の草花を観察し、新緑の大池を満喫しました。



忘れない「7.11水害」②

～河川整備による地域発展への効果～

■問合せ…国土交通省高田河川国道事務所調査第一課（☎025-521-4540）、河川海岸砂防課（☎025-520-5781）

関川の河川整備の取り組み

関川は、昭和44年に一級河川に指定され、以降、国による河川整備を進めてきましたが、昭和44年8月、洪水での甚大な被害を受け、昭和46年に計画を見直し、関川については堤防を付け替えて川幅を広げたり、川の中を掘削して洪水が流れる断面を確保し、保倉川については放水路で海へ分流することとしました。

関川は、昭和57年9月の洪水、平成7年7月の洪水（7.11水害）などの災害対応もあり、河川整備を加速的に進めてきました。河川整備の進捗を示す整備率は、約62%（令和3年度末時点）となっています。河川整備による氾濫頻度の減少により川沿いの開発が進展し、市街地も拡大しています。特に上越市上源入・下源入・下門前地区などでは新たな商業施設の参入や宅地開発が進み、世帯数が増加しています。

今後の取り組みとして

河川整備が地域の発展に貢献する一方、近年は気候変動などの影響により洪水が激化し、発生も頻発化しています。こうした事象を踏まえ、長期的な観点から河川整備の基本的な考え方を定めた関川水系河川整備基本方針を令和5年3月13日に変更するとともに、抜本的な治水対策として保倉川放水路の整備を計画しています。

昭和57年撮影



川幅が狭く蛇行しており、沿川には水田が広がっている

平成28年撮影



河川整備により川幅は広くなり、沿川には市街地が広がってきた



関川水系河川
整備基本方針



上越清里星のふるさと館 スターゴールデンウィーク



4月27日㊥～5月6日㊥ 上越清里星のふるさと館（清里区青柳）

大 勢の来場者が「プラネタリウム」「昼＆夜の天体観測」を楽しみました。「天文工作」では、親子でプラ板キーホルダーなど素敵な作品を作り、連休のひとときを過ごしました。

旭新緑祭



5月4日㊥ 田麦ぶなの森（大島区田麦）

雲 一つない晴天の下、市内外からの参加者約90人が山菜採りやぶなの森の散策を楽しみました。散策後は、地域の皆さんによるタケノコ汁や山菜天ぷら、焼肉を全員で味わいました。

いきいきロマン川辺山菜まつり



5月3日㊥ 牧ふれあい体験交流施設（牧区原）

牧 区で採れたウドやワラビ、タケノコなど山菜の販売や、ゲーム、ステージイベントが行われました。来場者には「ウドの粕汁（かす）」が振る舞われ、春の味覚を楽しみました。

柿崎みなとさかなまつり



5月4日㊥ 柿崎漁港（柿崎区直海浜）

さ わやかな風が吹く絶好の天候の下、県内外からの多くの来場者でにぎわいました。漁船の体験乗船は、早朝から行列ができるほどの人気で、沖合からの眺めと海上での潮風を満喫しました。